

第53回 渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例会資料

（平成27年2月21日）

前回（1月17日）は、ねぐら入りするチュウヒの数を調べました。現地の気温は2度c、北西風が吹きすさんでいました。ご苦労様でした。

昨年2月15日の大雪以降、チュウヒのねぐらはオオセッカの西側繁殖地に変わり、その後、少数が元のゴルフ場南のねぐらに戻っていました。今季も同じ傾向が続いていましたので、定点をゴルフ場南と、篠山大沼入り口駐車場の2箇所に変更しました。

今までは、回収したカウンター10個の最高値だけをお知らせしていましたが、誤差等も読めるように、最低値と平均値もお知らせすることにします。結果は以下の通りです。

《イ、ゴルフ場南》	最大値 20羽	最小値 10羽	平均値 13,2羽
《ロ、篠山大沼入り口》	最大値 42羽	最小値 30羽	平均値 34,8羽
《イ+ロ》	最大値 62羽	最小値 40羽	平均値 51羽

この結果をどのように読んでいいでしょう？ 昨季までとの違いは、昨年2月の大雪以降、ねぐらが二つに分かれたということがあります。2箇所になったことで収容量(?)が増えた結果なのでしょうか？ 例として適切ではないかもしれませんが、関東では1980年代には上野の不忍池に僅かが生息するだけに減少したカワウが、不忍池の改修をきっかけに分散し、それ以降速い速度で数を増やしてきましたが、ねぐら入りするチュウヒも繁殖域を拡大したカワウも、それが人為的か自然現象かに係らず、「きっかけ」が重要な役割を果たしている、とはいえませんか？よくいう「攪乱」がきっかけになるとすると、少なくともチュウヒもカワウも意外と保守的な生き方をしていると言えませんか？他の生き物ではどうでしょう？

なお、「平成25年調査では、最大値40羽」、「26年調査では、最大値33羽、最小値25羽、平均値28,8羽」でした。

* 2月11日にアクリ主催の講座がありました。私は鳥類目録作成後の変化等について話しました。現在の確認種は『259種』、絶滅危惧種は『58種』、外来種は『20種』です。

鳥便り 1/17 チュウヒのねぐら調査の帰途、野渡の土手付近でアライグマ。タヌキ大でそれより細身、尾も細めで長く、黒くて太い縞あり。渡良瀬遊水地での初めての視認(?) (一色)。1/24 コミミズク (真瀬) 1/30 小雪、ヌマスギ林北の疎林にノスリ。千本杭にタシギ2羽、オオハシシギ2羽。東谷中橋袈上手にカワアイサオス (一色)。1/31 カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ、トビ、タゲリ、ハヤブサ、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、ツグミ、ヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、(加須市探鳥ハイキング・木村、一色) 2/6 コチョウゲンボウメス、ハヤブサ (一色) 2/7 ハジロクロハラアジサシ (真瀬) 2/15 トラフズク (真瀬)



(左からオオハシシギ、アオゲラ、コミミズク・真瀬)

* 今回は、3月予定（3月21日。22日はヨシ焼き）のチュウヒの繁殖調査に備えて、遊水地を一周します。定点は「ウォッチンタワー、ゴルフ場東の沼の北側、タカ見台、第2水門、桜堤北端、第3調節地の沼東、同北東端の7箇所を考えています。ご意見がありましたらお寄せください。

* 遊鳥会の写真展を2月25日から3月1日まで開きます。24日に準備をします。ご協力を！ (一色)